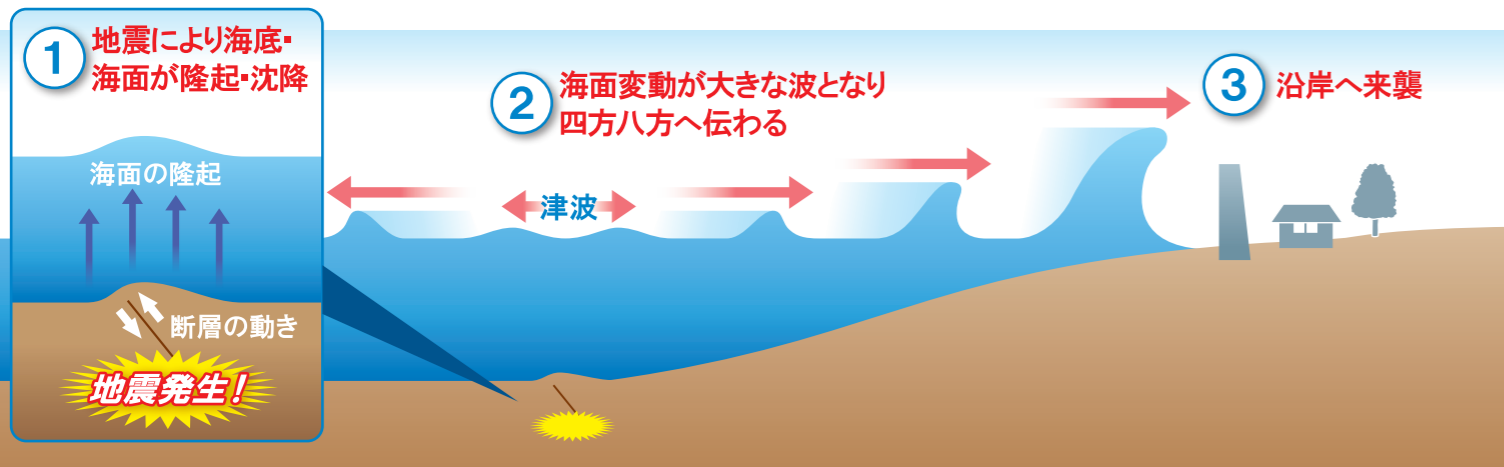


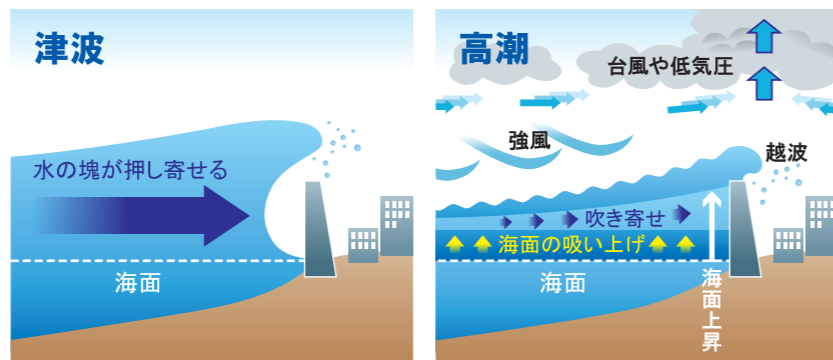
▶ 津波の起こり方

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝わるものが津波です。



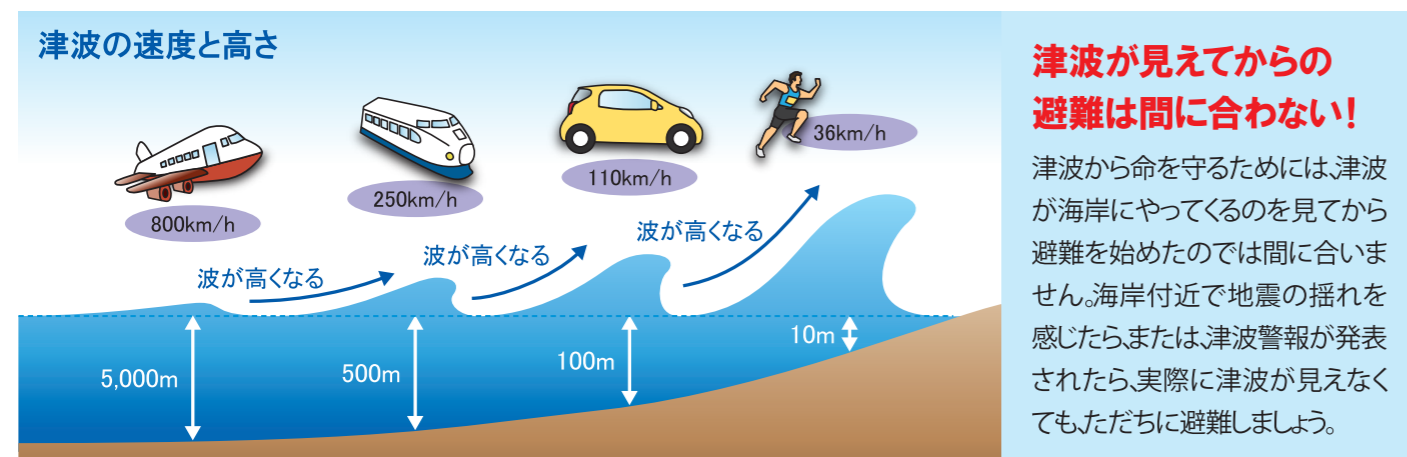
? 津波と高潮の違いとは

高潮は気圧や風の影響により海表面の波が高くなり、短い周期で押し寄せますが、津波は、地震による海底地形の変動などが原因で起こるため、海底から海面までの海水全体が動き、水の壁となって長い周期で押し寄せます。



▶ 津波の速さ

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ後から来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。

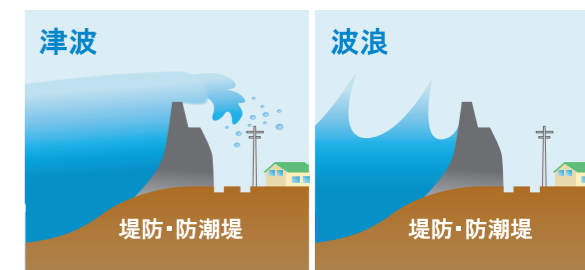


▶ 身を守るために知っておきましょう

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波の特徴を知っておきましょう。

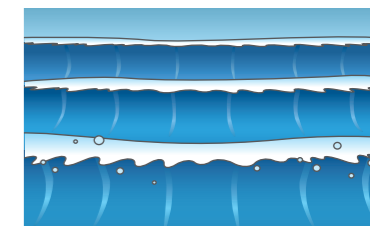
恐るべき津波の破壊力

- 普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



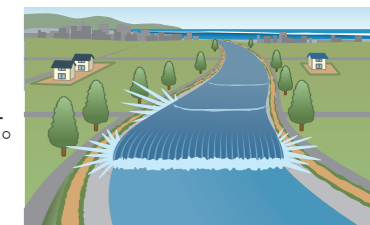
津波は繰り返し襲来する

- 津波は繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。
- 一度波が引いても、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。



津波は河川を遡上する

- 津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。
- 遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。



水深が浅くても危険

- 水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。
- 津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元をすくわれてしまう可能性があります。



引き波があるとは限らない

- 津波は引き波から始まるとは限りません。
- よく、津波の前には引き波があると言われていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。



満潮のときは要注意

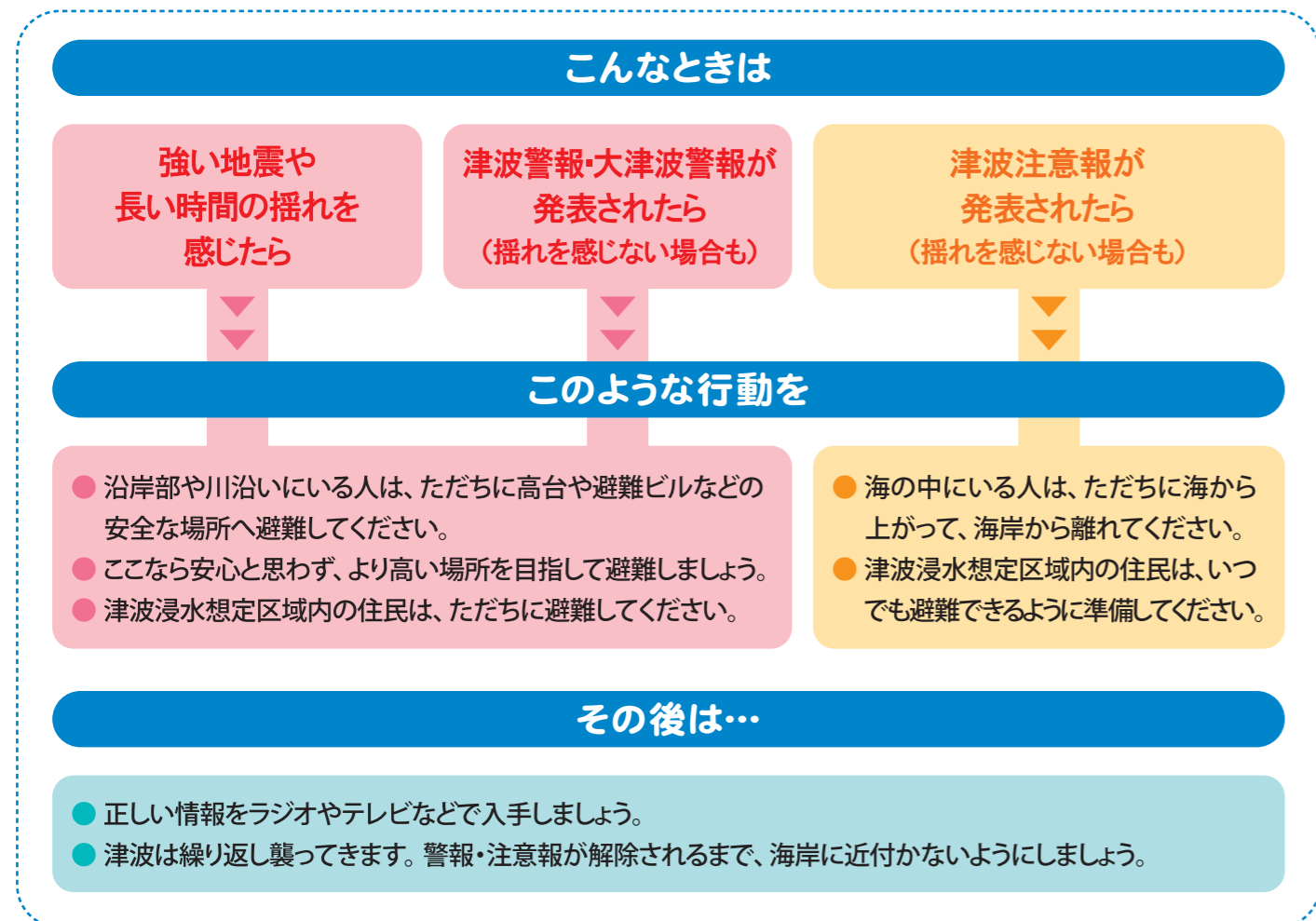
- 満潮のときは水位が高くなっているため、津波が高くなり、被害が大きくなるのが想定されています。



津波被害を防ぐために

▶ 津波から身を守る行動パターン

地震発生後、あっという間にやってくるのが津波。津波から身を守るためには、逃げる以外に方法はありません。一分一秒でも早く避難できるよう、そのタイミングと避難方法を覚えておきましょう。



▶ 津波からの避難

避難時には以下のことに気をつけて、落ち着いて行動しましょう。



小さな揺れでも 油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



正しい情報を 聞く

ラジオ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。



より高い場所へ 避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

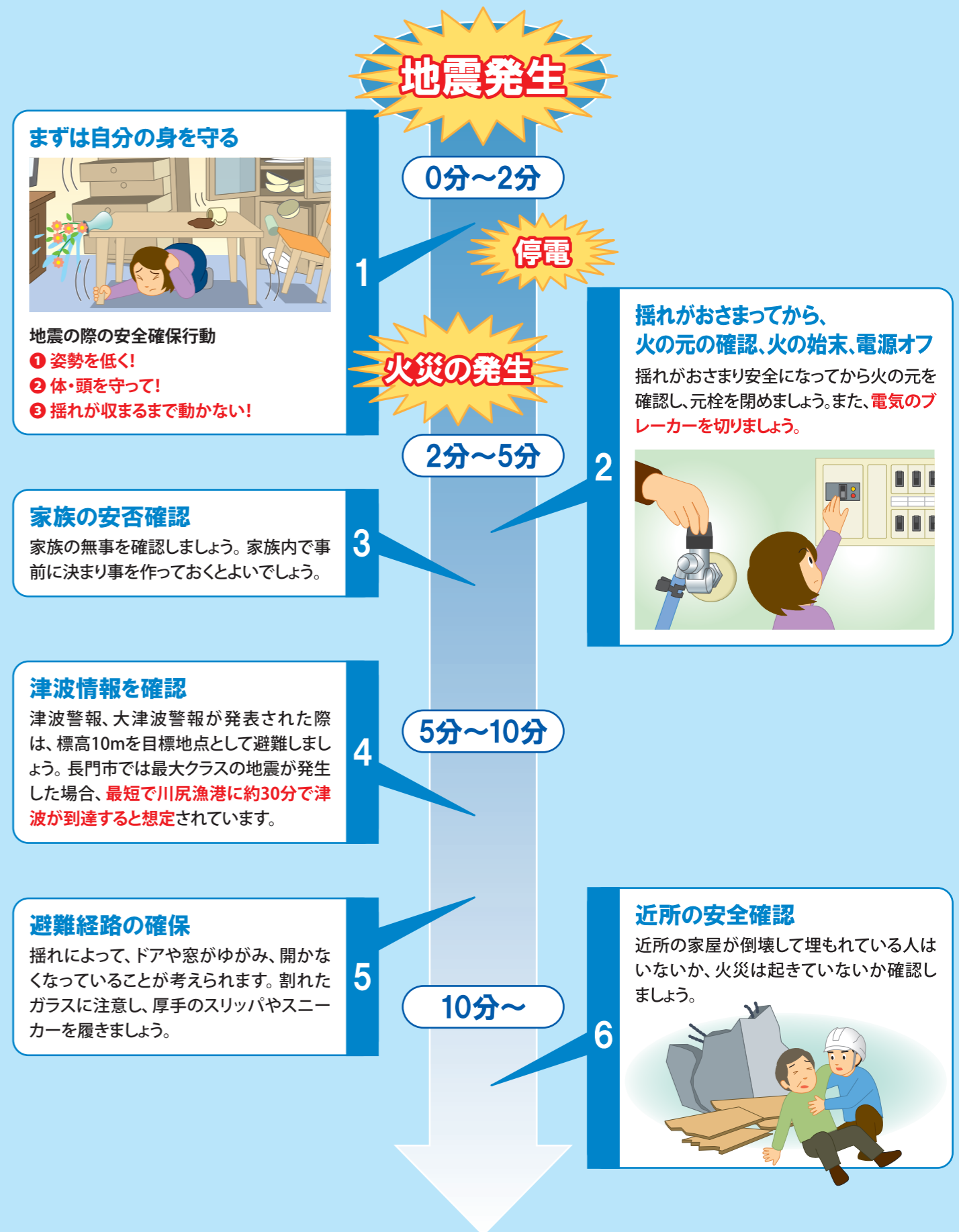


車での避難は 控える

車は約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

地震発生! その時どうする

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。落ち着いて行動するためには、日頃から地震が起きたときの行動をイメージしておくことが重要です。



▶ 大津波警報・津波警報・注意報

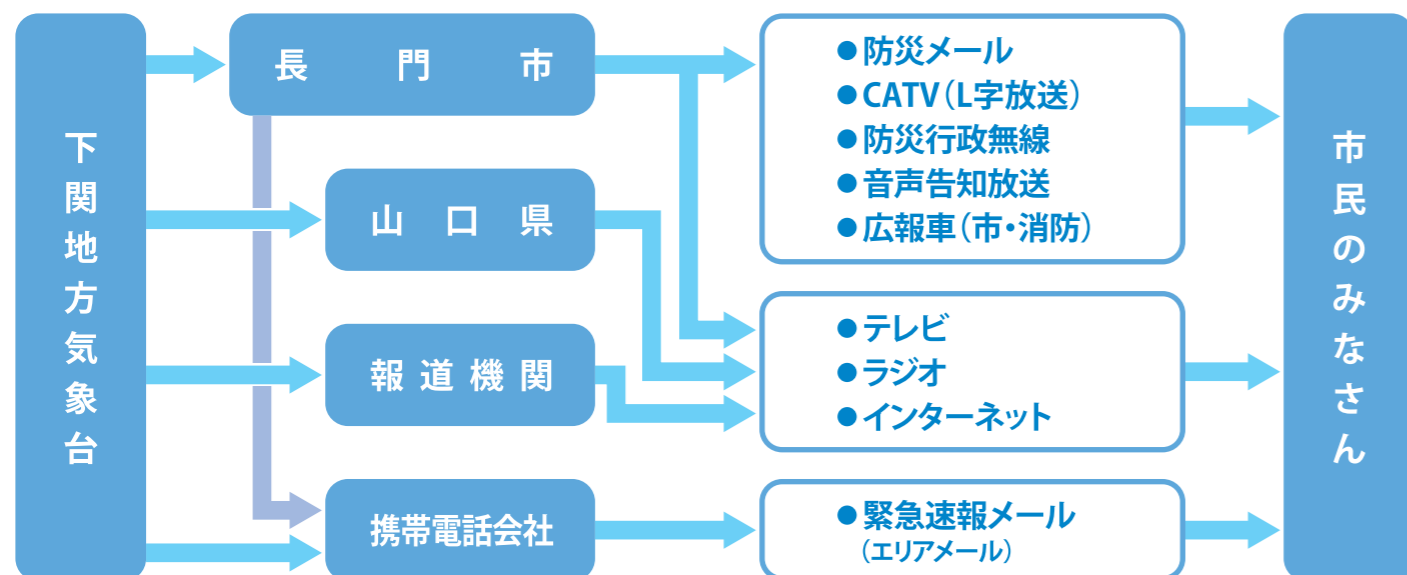
地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。大津波警報や津波警報の時は、すぐに以下のような行動をとりましょう。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の発表		
特別警報に位置付け 大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、高台など安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	<ul style="list-style-type: none"> ●木造家屋が全壊・流失します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	<ul style="list-style-type: none"> ●海拔の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	<ul style="list-style-type: none"> ●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ●養殖いかだが流出し、小型船舶が転覆します。

- 震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未滿で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

▶ 情報の伝達経路

長門市役所などの公共機関から津波警報等の避難に関する情報が発信されます。最新かつ正確な情報を入手し、安全に避難しましょう。



長門市防災メール

「長門市防災メール」とは、登録していただいた方に、市から気象情報・地震情報・避難情報などの防災情報をはじめ、防犯・交通安全情報などを携帯電話やパソコンに無料でメール配信するサービスです。

配信される情報

- ① 長門市の気象情報(注意報、警報)
- ② 長門市の土砂災害警戒情報
- ③ 山口県日本海沿岸の高潮や津波の情報
- ④ 山口県北部地方の震度3以上の地震情報
- ⑤ 避難勧告等の避難情報
- ⑥ 防犯及び交通安全等の情報
- ⑦ 防火防災の情報
- ⑧ 国民保護(武力攻撃事態、緊急対処事態)の情報
- ⑨ 火災情報

※登録料・情報料は無料ですが、登録・情報受信に係る通信料は自己負担となります。

登録方法

- 1 「e-nagato@xpressmail.jp」へ空メール(件名・本文なし)を送信してください。
※右のQRコードを読み取り、メールを送信することもできます。
- 2 折り返し、登録用メールが届きます。メール本文内に記載されたURLにアクセスしてください。
- 3 登録用の画面が表示されます。利用規約を確認後、画面の指示に従って、取得したい情報や地域を選択してください。
- 4 「登録」ボタンを押して登録完了です。

※詳しくは長門市のホームページをご覧ください。

▶ 災害時の連絡方法

地震や津波などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」「災害用伝言板サービス」・「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

体験利用日 毎月1日・15日、正月三が日、および防災週間、防災とボランティア週間

伝言の録音方法

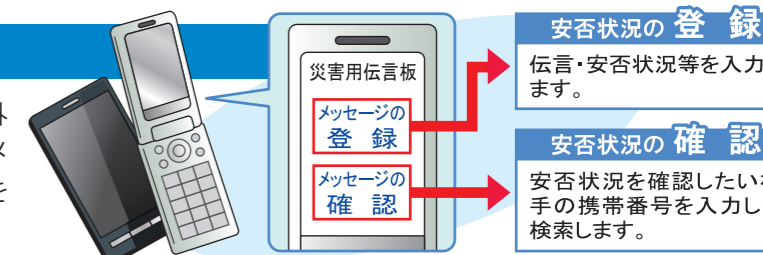
- 1 171をダイヤル
- 2 1を押す
- 3 被災地の方の電話番号を「市外局番」からダイヤルしてください
- 4 伝言を録音する

伝言の再生方法

- 1 171をダイヤル
- 2 2を押す
- 3
- 4 伝言を再生する

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



災害用ブロードバンド伝言板(web171)

<https://www.web171.jp/> 左記URLへアクセスし、案内に従って操作してください。

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

▶ 日頃の心得

避難場所の確認や浸水地域の把握など、日頃から備えておきましょう。また、家族と避難場所や連絡方法を確認しておくことが大切です。

家族会議を開こう

津波が発生したとき、どこに避難し、どのようにして連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合しましょう。

一人暮らしのお年寄りなどには心配りを

自分の家族だけでなく、地域全体に目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子供、病気の方など避難行動要支援者の方たちには、普段から心配りが必要です。

避難場所や避難路を確認しておく

この津波ハザードマップをもとに、自分の地域の避難場所や避難ルートを確認しておきましょう。

避難訓練に参加する

避難路の安全性の確認のために、地域の避難訓練に参加しましょう。避難行動要支援者への支援方法についても、話し合うとよいでしょう。

みんなで取り組む防災訓練

長門市では、大災害時における被害の軽減及び市民の防災意識の高揚を図ることを目的として、防災訓練を実施しています。市役所・支所、自治会、市のホームページや「広報ながと」などを通じてみなさんにお知らせしますので、是非、ご参加ください。

▶ 自助・共助・公助

東日本大震災では、地震発生直後の「自力」「家族」「住民同士」による助け合いによって、多くの命が救われており、災害発生直後における地域の防災活動の重要性がより明らかになりました。また、その後の避難生活においても、地域のつながりが被災者の支えとなりました。

災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助(住民、企業)、共助(自主防災組織等)、公助(行政、防災関係機関等)が最適に機能すれば、被害を減らすことは可能です。



▶ 非常持ち出し品

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくとい良いでしょう。

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日2~3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル	<input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 免許証など(身分を証明するもの)
<p>日頃から、7日分の食料と飲料水を、非常持出品として常備しておきましょう。</p>		
衣類など	日用品など	
<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池)	<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品

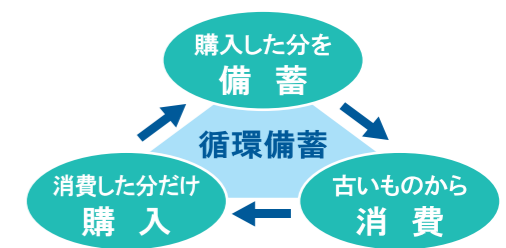
▶ 備蓄品

災害復旧までの数日間(7日間程度)自ら生活できるように準備しておきましょう。被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておくとい良いでしょう。

食料	燃料・日用品など	
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 米(缶詰やレトルトのご飯なども便利) <input type="checkbox"/> 缶詰や菓子類 <input type="checkbox"/> 粉ミルク・離乳食	<input type="checkbox"/> カセットコンロ <input type="checkbox"/> 予備のガスボンベ <input type="checkbox"/> 毛布または寝袋 <input type="checkbox"/> ブルーシート	<input type="checkbox"/> 割り箸 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ <input type="checkbox"/> キッチン用ラップ <input type="checkbox"/> なべ

「循環備蓄」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などは保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「循環備蓄」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。



▶ 家具などの安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、家の中の安全性を高めておきましょう。

■ 収納に工夫を

- タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。

■ 耐震金具を利用しよう

転倒防止金具

壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、天井などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。

重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。

■ 照明器具の補強を

- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。

■ 置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒を防止するための板などを入れ、壁にもたれ気味にします。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。

■ ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。

■ 扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを敷いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。

地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか？

手近な取り出しやすい所に運動靴などを用意しておく、災害時の足のケガを防止できます。

- ベッドや寝るところで、倒れかかる位置に家具や本棚はありませんか
- ひび割れ、壊れているところはありませんか
- 高すぎませんか
- 傾いていませんか
- グラついていませんか
- 照明器具はしっかりと取り付けられていますか
- 高いところに花瓶などの、割れると危ないものはありませんか
- 食器棚や家具は固定していますか
- ガスボンベを固定していますか
- 控壁はありますか
- テレビや水槽を低いところに置いてありますか
- ストープをふすま・障子・カーテンの近くで使用していませんか
- ガスボンベの周りに物が置いてありませんか

▶ 建物の耐震性を確認

建物の耐震性を確認するために、まずは耐震診断を受けましょう。安全でないと診断された場合は、適切な耐震改修を行うことで安全性を確保できます。専門家に相談してわが家にもっとも適した工事方法を選び、耐震改修を行いましょう。

■ 壁を補強する

● 耐力壁を増やそう!

耐力壁の量を増やすと、建物は丈夫になります。

● 耐力壁のバランスを良くしよう!

壁の配置にかたよがりがあると、地震で建物がねじれるおそれがあります。壁の少ない側に耐力壁を設ける補強をして、建物のバランスを良くします。

■ 屋根を軽量化

● 軽い材料の屋根に替えることで、耐震構造を向上!

軽量化については、耐震壁などの上部構造各部の補強と全体で考えましょう。

■ 建物の基礎を補強する

● 土台が大切! 基礎の補強で建物の性能UP!

無筋コンクリートは耐震性に乏しく、崩壊しやすいので、新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせます。

ひびの入った基礎は樹脂などを注入して補強。

■ 腐朽部分を補強する

● 腐朽部分は新しいものと交換しよう!

劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。

■ 耐力壁とは…

ただのボードを張っただけの間仕切用の壁と区別され、構造用合板などを張り、想定される地震力に抵抗できる壁のことをいい、筋かいの入った壁も含まれます。

■ 揺れによるゆがみ

筋かいを入れたり、構造用合板で補強します。

■ 接合部を補強する

火打金物・制震金物・筋かいプレート・山形金物などで補強することで地震の揺れによるひずみに耐えることができます。

■ ひと部屋だけを耐震化することも有効

家全体の耐震改修が困難な場合、ひと部屋だけでも補強をして安全空間を作っておくと、いざというときに逃げ込む場所として有効です。

▶ 耐震診断・耐震改修を行いましょう

山口県や長門市では、住民のみなさんの安全を確保するため、木造住宅の耐震診断及び耐震改修工事に要する費用の一部を補助する制度や、耐震改修工事を行った際に、税金が優遇される制度を設けています。詳しくは、長門市役所 都市建設課管理係 (☎ 0837-23-1147) までお問い合わせください。

耐震診断・耐震改修に関するお問い合わせは… 長門市役所 都市建設課管理係 ☎ 0837-23-1147

避難所・避難場所

① 一覧表には、地震・津波に対応した避難所・避難場所を掲載しています。

避難所とは…

災害の危険性があるために避難した住民の方が、危険性がなくなるまで必要な期間滞在できる施設をいいます。

避難場所とは…

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるための場所を指します。

名称	所在地	電話番号(0837)	避難所	避難場所
通小学校	通1121番地1	28-0234	●	●
通体育館	通319番地1	—		●
仙崎中学校	仙崎1181番地1	26-0814	●	●
ながと総合体育館	仙崎818番地1	26-6005	●	●
中央公民館	東深川1326番地6	23-1181		●
長門市保健センター	東深川1326番地6	22-2811		●
深川小学校	東深川2688番地1	22-2426		●
深川中学校	東深川12714番地	22-2428	●	●
長門農業者トレーニングセンター	深川湯本584番地2	22-4435		●
向陽小学校	深川湯本738番地	22-2425		●
大畑体育館	渋木501番地1	—		●
俵山公民館	俵山2302番地1	29-0063		●
俵山小学校	俵山2310番地1	29-0833		●
俵山湯の家	俵山4827番地1	29-0831		●
宗頭文化センター	三隅上3228番地1	43-0617		●
湯免ふれあいセンター	三隅中251番地6	43-1000	●	●
三隅中学校	三隅中1504番地	43-0911	●	●
明倫小学校	三隅中1512番地3	43-0011		●
三隅保健センター	三隅中1473番地	43-0221		●
三隅公民館・三隅農業者トレーニングセンター	三隅下518番地	43-0811		●
野波瀬三世代交流館	三隅下3875番地4	—		●
神田小学校	日置上2123番地	37-3012		●
日置農村活性化交流センター	日置上3137番地1	37-4320		●
日置中学校	日置上6215番地	37-2036	●	●
日置小学校	日置上6150番地1	37-2069	●	●
日置保健センター	日置上5914番地3	37-2111		●
日置農村環境改善センター	日置上5880番地1	37-2340		●
山口県立大津緑洋高等学校 日置キャンパス	日置上401番地2	37-2511		●
あけぼの園	油谷久富45番地	32-1688		●
わいわい子どもセンター	油谷新別名672番地1	32-1506		●
ラポールゆや	油谷新別名833番地	33-0051	●	●
油谷保健福祉センター	油谷新別名803番地	33-3021		●
油谷小学校	油谷新別名666番地	32-1102		●
菱海中学校	油谷河原1016番地	32-1104		●
旧伊上小学校 校舎	油谷伊上2391番地	—		●

名称	所在地	電話番号(0837)	避難所	避難場所
宇津賀多目的交流館	油谷後畑151番地	—		●
宇津賀集落センター	油谷後畑1894番地1	32-1140		●
向津具公民館	油谷向津具下3265番地2	34-1112		●
向津具小学校	油谷向津具下4102番地	34-0002	●	●

防災拠点

消防 火事・救急 **119** 番 海上保安 **118** 番

防災拠点とは…

地震などの大規模な災害が発生した場合に、被災地において救援、救護等の災害応急活動の拠点となる施設をいいます。

名称	所在地	電話番号(0837)
長門市役所	東深川1339番地2	22-2111
三隅支所	三隅中1473番地	43-0221
日置支所	日置上5914番地3	37-2111
油谷支所	油谷新別名964番地	32-1111
通出張所	通671番地2	28-0211
仙崎出張所	仙崎1374番地	26-1442
俵山出張所	俵山2302番地1	29-0041
宇津賀出張所	油谷後畑1894番地1	32-1140
向津具出張所	油谷向津具下3265番地2	34-1111
長門市中央消防署	東深川1902番地1	22-0119
長門市西消防署	油谷河原1056番地3	32-1230

警察

警察 事故・事件 **110** 番

名称	所在地	電話番号(0837)
長門警察署	東深川777番地	22-0110
長門市駅前交番	東深川905番地10	22-1514
油谷交番	油谷新別名172番地1	32-1110
通駐在所	通980番地10	28-0522
仙崎駐在所	仙崎1087番地31	26-0017
湯本駐在所	深川湯本2529番地3	22-0651
渋木駐在所	渋木3422番地1	25-3426
俵山駐在所	俵山5027番地2	29-0200
三隅駐在所	三隅下1045番地2	43-0419
宗頭駐在所	三隅上3231番地4	43-0429
黄波戸駐在所	日置上2388番地26	37-3110
古市駐在所	日置上6143番地25	37-2110
後畑駐在所	油谷後畑1770番地1	32-1031
川尻駐在所	油谷後畑3723番地3	32-0110
大浦駐在所	油谷向津具下2066番地27	34-1020

防災メモ

家族みんなで避難先や緊急時の連絡先などについて話し合い、ここに書き込みましょう。また、このマップを持って実際に避難先まで歩いてみましょう。避難先までにかかった時間や危険なところなどをチェックし、安全で避難しやすい経路を確認しましょう。

避難場所

第1候補

避難場所までの危険箇所

()が

歩いて避難した場合にかかった時間

分

第2候補

避難場所までの危険箇所

()が

歩いて避難した場合にかかった時間

分

第3候補

避難場所までの危険箇所


()が

歩いて避難した場合にかかった時間

分

家族の連絡先

名前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

 **避難場所までの経路** 自宅から避難先までの経路図を書き込みましょう。